

昭和38年	2月分	表面水温	平年差	比重	平年差
	上旬	14.6°C	-1.0°C	27.25	+1.86
	中旬	14.4	-1.0	27.11	+1.75
	下旬	14.0	-1.5	27.42	+2.28
	月平均	14.3	-1.2	27.26	+1.94

4 奄美大島（特に大島海峡）における魚類の異常斃死

徳 留 陽 一 郎 （鹿兒島県水産試験場大島分場）

(1) 概 況

昭和38年2月12日頃より大島海峡内の久慈湾、薩川湾で沿岸底棲魚を主とした斃死魚がみられ、2月13日に至りその数は増し、推定1,000Kg以上にのぼった。そして14日から減少し、15日以後は数尾をみる程度に終わった。

(2) 結 果

斃死魚はハギ類を主に下記の魚種であつた。ヒレナガハギ、サザナミハギ、ヒフキアイゴ、イトトウダイ類、タテジマヤツコ、ブダイ、オオヨロイウオ、フグ類、甲イカ、キントキダイ類、なおムロ、キビナゴ等の表層遊泳魚の斃死はみられなかつた。

異常斃死の原因についてははっきりしたことは掴むことは出来なかつた。ただ解剖検鏡では肉質、内蔵共に異常は認められず、薬物、爆発物等によるものではないことが確認された。外観上は尾鰭、しり鰭に若干の損傷がみられた程度であつた。

一説にいう海水の異常低温が直接の影響かどうかは不明だが1月中殆んど西又は北西の季節風が強く吹き、連日あられが降り、古老の話では、

こんな寒い年は経験がないとのことであつた。

例年、1月の気温が 10°C 以下になることは殆んどないが3年は特に寒波はひどかつた。しかしながら古仁屋港内の水温は例年と殆んど変りない。

1月上旬の気象

日	風向・力	最低気温	水温(古仁屋港内)
2	W 5	10.2°C	—
5	NW 2	10.5	20.3
7	W 4	6.5	19.2
8	NW 2	7.5	20.1
9	W 5	8.0	19.5
10	N 1	6.5	19.5
12	NW 1	6.5	19.6
13	NW 1	8.0	19.8



▣ 最も多く斃死魚がみられたところ

▨ 斃死魚が若干みられたところ